はしがき

本報告書は2007-09年度2007-09年度科学研究費補助金基盤研究(B)「石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究」の成果をまとめたものであり、島根大学法学部の2004-6度山陰研究プロジェクト0404「宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究」の研究報告書「宗門改帳からみる山陰の近世社会その1」および「その2」の続編にあたる。

本研究の特徴は島根大学附属図書館に所蔵された熊谷家文書中の宗門改帳を中心として、山陰地域に数多く保存されてきた宗門改帳を探索し、整理、解読、電子化してデータベース化し共同利用することを軸として、多面的総合的な研究を行うところにある。

宗門改帳は江戸時代の各村の各人を記録したものであり、この記録を通じて当時の人びとの生活や社会の様々な側面を知ることができる。宗門改帳は島根県内においてかなり存在していることが知られているが、個人宅や市町村役場、図書館に分散し、一部を除き電子化されておらず、体系的な利用は極めて難しい状況にある。これをデータベース化するには、資料収集、解読、電子化、集計などにおいて、多分野の専門家による共同研究作業が必要であり、多大の人力と経費を要する。また、他方、宗門改帳を利用した研究のためには、当時の村の産業や生活、文化、宗教に関する別の資料による研究とともにとりくむことが重要である。

本研究はこの宗門改帳のデータベース作りの作業に共同で取り組むとともに、できあがったデータベースを順次、用いて研究し、また、これと並行して、当時の村の産業や生活を別の資料による研究を進め、江戸時代の人名・用字、人口・家族、産業、宗教など多くの側面から江戸時代の石見・出雲地域の社会の仕組みを明らかにしようとするものである。

以上のような石見・出雲の江戸時代社会の復元研究はまだ中途段階にあるが、とくにこの3年度は上記のテーマを設定して研究をおこない、ここで多くの研究者の批判を仰ぐとともに、石見銀山など各地域の歴史文化遺産を活用する事業の一助となることを期待している。また、本研究において作成される宗門改帳データベースは山陰研究センターなどで一定の条件のもとで研究や教育に広く利用可能になるよう努力したい。

研究代表 島根大学法学部山陰研究センター教授

廣嶋清志

2010年3月1日